

# ふりがえり、その先へ。

ガッタには199号分の過去があり、201号に未来を描く使命がある。  
200号を迎えた。いま、その道のりをふりかえり、  
心に強く記憶されていた、アノ話を取り上げます。



## あの特集の「アノ話」には、 続きがあります。

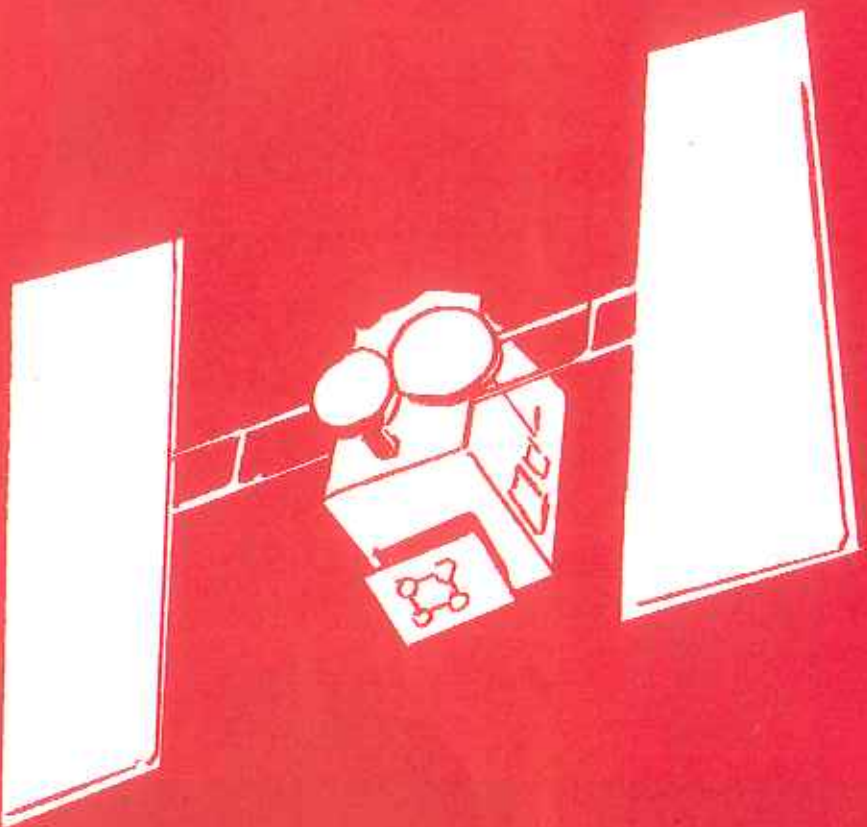
2000年の記し(117)  
ふたたび登場するアノ話

ガッタの創刊号は2004年9月5日に発行されました。おかげさまで、あれから16年と0カ月が経ち、今回で2000号を迎えることができました。これまで支えてくださった多くの読者とスポンサーの皆さまには、この場をお借りして平に御社申し上げます。

そんな記念すべき今回の特集は「あの時の取材で訊いた、胸が詰まる話」の続きです。

2000回の特集の記憶。それはどれを切り取っても思い出深く、たくさんの人に聞わっていただきながら成し遂げてきた軌跡でもあります。そんななかふたたびの登場となるかたがたは、「ひと言でいえば一走り続けている人たち」です。当時間がせてもらった展望や夢、熱意の大きさに感動し、まるで私たちがその先をも照らしてくれるような、そんな希望を植がせてくれた話の主人公たちです。あの話から数年、どれほどの距離を走り、どんな変化や進化を遂げているのでしょうか。

過去の積み重ねと、未来への展望がつくられるアノ話の「いま」を訪ねます。





げそ男1シャツやシール、コラが日本酒も販売。3,000円以上購入で配送してくれる宅配サービスのカタログも好評だ。

「あ」の後「エンドー」には商品ロゴに加えて、「げそ男」がシンボルキャラクターとして加わり、店の顔となって盛り上げてくれている。また去年12月には店舗がリニューアルされ商品棚のレイアウトが一新。買い物がしやすくなったほか、イトインスペースも広がるなどの進化を遂げた。さらなる展開について尋ねると「美味しいものをお客様に提供して食卓を支えていく、そこは変わらないです。これからわっただからこそできるサービスでチャレンジを続けていきたい」と遠藤さん。



エンドー  
山形県山形市長町2-33  
☎023 681 7711 @10:00  
~19:00 日・月・火  
@esoten.jp



エンドー  
店主  
遠藤英則さん

EPISODE 03  
成長し羽前千歳の名所に  
2020年12月リニューアルオープン。おもしろくうまい味は続く。



遠藤英則さん

EPISODE 02  
多様なグッズも評判に  
げそ男が活躍の場を提供。オリジナルグッズの販売もはじめる。



エンドーのげそ天

EPISODE 01  
掲載を機に来客急増  
ガッツに掲載されたことで知名度が高まり、知る人ぞ知る店からげそ天の有名店に。



168号特装  
やまがたのげそ天



ENDO GESOTEN 2021  
長男となる  
ゆうくんも加わり  
4人で登場!

「そ」もそもげそ天は、山形の主に村山地域に住む人々が好んで食べているローカルフードだ。蕎麦屋やラーメン店、居酒屋、はたまたスーパーの惣菜コーナーでもよく見かけるのに、専門店の話は聞いたことがない。「エンドー」ももちろん専門店ではないのだが、取材当時はブレレン、塩レモン、ピリ辛、カレーの4種だったフレバーが、2年8カ月の間にチーズ、BBQ、ワサビ、柚子、コシコウ、シーフード、ブラックと6種も増え10種類に増えていた。もはや専門店のようになってしまったのではないかと、かつて遠藤さんは、JF羽前千歳駅を利用する人におやつを食べる感覚で買ってきてもらえたら」と話していたが、限外のか

### ユニークな仕掛けの根っこは 美味しいものへの実直な思い

左から人気No.1の塩レモン、香ばしいブラック、無念の旨味が伝わるシーフード。それぞれ中サイズ(2人前)で、ブラックは700円。ほか730円。



## 山形グルメで火がついた、 げそ天ブームのその後。

小さな駅前の地元密着型スーパーが町の話題をさらい、全国へ知られる存在に。



イトインスペースでげそ天のほかおにぎりやげそそば(11:30~14:00)、げそ天、餃子めしなどの食事が楽しめる。



ENDO GESOTEN 2018  
当時、表紙に  
登場したエンドー  
3人の姉妹が

そ	げ
の	天
先	の

「地」域密着型のスーパーマーケット「エンドー」が特集に登場したのは、2018年10月号。平成のげそ天ブームの仕掛け人として、店主の遠藤さんと「エンドー」のブランドイメージを手がける杉の下真匠室の鈴木さん、小関さんに参加いただき「げそ天ミーティング」を開催したのだ。

「脇」役として絶大な信頼を得ているげそ天。そこにスポットを当てた特集は各方面から評価をいただき、有用性の検証ができたこと密かに白負している。「すごく反響がありました。」

そんななか「エンドー」はシンボルマークまで作り、大々的に推している。

その後1年半くらいの間はガッツを見てきたというお客様の足が途絶えなかったと遠藤さん。「あの特集をきっかけに新聞やテレビなどのメディアでも取り上げてもらえる機会が増えた」とも。

入口が広がり、入りやすく注文しやすくなった店内。地元の人気ベーカリーの商品や山形産の調味料、酒類も並ぶ。



あの「げそ天」の  
マノ話



BACK in 2018 # vol.168

耕作放棄地から始まったオリジナルワインづくり。  
憧れのままで終わらせないひとりの男の話。

# ぶどう畑に描かれた ワイナリーの未来図、 まだまだ進行中。

「気軽に立ち寄れるワイナリーを」  
4年前の言葉が実った瞬間

**ト** ンネルを抜けると、蔵王連峰を望む丘の上にとどろいた。のどかな空気が流れる上山市久保手地区は、昔から良質なぶどうの名産地である。2017年、ここにはまだ開拓が始まったばかりのぶどう畑が広がっていた。そのなかで夢を語ってくれたのは、県内のワイナリーで19年間の修行を積んだのち、新進気鋭のドメー

メとして歩み始めたばかりの鈴木智晃さん。あれから4年経ったいま、彼の夢はどんな進化を遂げたのか。

**鈴** 木さんが運営するワイナリー「ベルウッドヴィンヤード」では、原料栽培から醸造、販売まですべて一貫して自らの手で行っている。これは独立時に鈴木さんが憧れ、目指

していたスタイルそのものだ。就農して1〜3年目は、ほかのワイナリーで委託醸造を行いながら、各所でノウハウを吸収した。自治体のプロジェクトやクラウドファンディングで支援を受け、徐々にぶどうの栽培面積を増やし、より高品質な原料の収穫を目指した。そして2020年3月に晴れてワイナリーが完成。そこから勢いは止まらず、6月に果実酒製造免許を取得し、9月から自社醸造を開始した。ワイナリーの公式オープンと、初の自社醸造ワインを発売したのは11月14日。運命的にも自身の誕生日



157号付録  
やまがたワイン

あの「ワイン」の  
アノ話。

だったという。「2017年当時もいまもぶどうを栽培してワインを造る、とやっていることは同じですが、夢がちよっとずつ叶っている実感はあります」と、鈴木さんは顔を緩ませた。



ひとがずつ丁寧にぶどうを育てる鈴木さん。昨年は県内の農家から買った分も含めて、約1畝のぶどうでワインを製造。  
Photo: Iwan Nishimura



2017年当時の  
オリジナル商品は  
委託醸造の1種

EPISODE 03

自社醸造のワインを露蔵シーズンに合わせて赤や白など果実ぶどうを使った果実味溢れるワインを発売。

EPISODE 02

念願のワイナリーが完成。醸造から販売まで、すべてワイナリーを自社の手にオープンさせた。

EPISODE 01

よりこだわったぶどう栽培。品種を増やし、高品質なぶどうに植え替え、休耕地を開拓して畑の面積も拡大。



左) 醸造したワインを熟成する倉庫での様子。右) ワイナリーでは1日限定でワインの発売も。来客との交流を大切にしているという。



ベルウッドヴィンヤード  
代表取締役  
鈴木智晃さん



**ワ** インは農産物です。ぶどうのポテンシャル、その年の気候、その土地が持つ個性が色濃く映し出される飲み物。それを引き出すのが僕の仕事です」と鈴木さん。ワイナリーに切手があらわれているのは、「ワインはワイナリーからのお便り」というメッセージが込められているからだ。いまはワイナリーで試飲ができるよう準備を進めているという。「いいものを作って届けたい」と独立時に掲げた志は、変わらず彼の原動力となっていた。

豊かな山形のローカルカラーを  
ワインという便りに乗せて

ワ	イ	ン	の
そ	の	先	



ラベルも刷新  
自社醸造商品が  
およそ13種に!



ベルウッドヴィンヤード  
山形県上山市久保手字久保  
丁4414-1 電話023-674-6020  
@bellwood.shop-pro.jp

COLLABORATION  
Gatta!

協	ワ
働	イ
歴	ン
	系

「山形ワインバル」の  
販促品制作のお手伝い

今年は後夏の開催が予定されている「山形ワインバル」。じつはGattaスタッフが第2回の開催からずっと広報や販促品制作のお手伝いをさせていただいてる。山形ワインバル公式グラス



出汁が効いた料理とワイン、  
飲食店&ストアをプランニング。

和食とワインのペアリングを味方の山形市「さんるくる」と、ワインや自家製チーズのストア「ヤマガタ」開店プランニングから販促品までGattaがお手伝いさせていただいた。さんるくる



印刷と広告で  
お役立ち。

YOSHIDA

株式会社  
ヨシダコーポレーション

- 総合印刷 ●印刷機材販売
- 広告の企画・制作 ●環境衛生機器販売

本社

〒963-0724  
福島県郡山市田村町上行合  
字北川田22-1  
TEL.024-942-0005  
FAX.024-942-2233

山形営業所

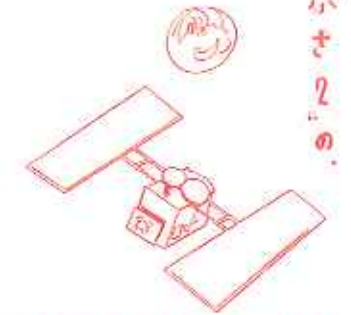
〒990-0861  
山形県山形市江保5丁目2-20  
TEL.023-674-7501  
FAX.023-674-7502

営業所：公津若松/いわき/山形/宇都宮/東京  
グループ会社：株式会社ピックス(広告代理店)



http://www.media-yoshida.co.jp

あの「はやぶさ2」の  
アノ話。



BACK in 2016 # vol.140



スイングバイで  
リュウグウに向かい  
旅立った当時



カプセル帰還に  
成功してローバは  
リュウグウに!

HAYABUSA2 PROJECT 2021



山形大学大学院理工学研究科  
機械システム工学分野  
左) 教授 伊野 真史さん 右) 教授 妻木 勇一さん

## さくらんぼ収穫ロボットの 実用化を目指して

2 020年12月、「はやぶさ2」から切り離されたカプセルが小惑星「リュウグウ」の試料を持って地球に帰還した。世界中から称賛を浴びたそのプロジェクトに、山形大学の妻木教授と伊野教授が関わったことは県内でも大きな話題となり、雑誌2016年6月号にご登場いただいた際にも、大きな反響を呼んだ。このプロジェクトの成功に貢献した功績は、私たち県民の誇りであり、モノ

づくりに関わる人々、そして未来を担う子どもたちの希望でもある。現在、おふたりの研究室では、どのような研究開発が進んでいるのだろうか。

伊野教授は、2015年から山形県の委託を受け、さくらんぼ収穫ロボットの開発を協同して進めている。さくらんぼは「アクリート」なため、収穫を機械化する対象としては難易度が高い果物だ。葉の陰に隠れた果実を探す、細い軸を掴んで握くなど、難題をいくつも乗り越え、試行錯誤を繰り返してロボットを進化させてきた。とくにこの数年で、果実の認識に関する技術は格段に向上したという。熟練の収穫者にセンサーをつけて握き取り動作を解析し、数値化することで指先の微細な動きをロボットで再現することを目標に研究を進めている。



山形大学 大学院理工学研究科  
山形県米沢市城南4-3-10  
〒982-88 26 3005  
@yz.yamagata-u.ac.jp



上) さくらんぼ自動収穫ロボットの試作機。現在はさらに進化している。下) マイクロマシンなどの研究を行うクリーンルームで伊野教授。

「はやぶさ2」のプロジェクトで培った技術を応用し、新たな可能性に挑戦しています。

## 山形発の先端技術は、 さらなる高みへ。

### 「移動機構」と「マイクロマシン」

さらに、妻木教授は深海でマッコウクジラがダイオウイカを捕食するシーンの撮影プロジェクトに、環境駆動型移動機構の応用技術で携わっている。成功すれば世界初となる前人未踏の挑戦だ。妻木教授は昨年、世界でも類を見ない超薄型の触覚ディスプレイの試作に成功。これは文字情報を見なく

ても触覚で文字を読み取ることでできるというもので、今後はモバイル、車載、医療用など幅広い分野での応用が期待される。プロジェクトを進めるうえで大事にしている点を訊いたところ、妻木教授は「事前の準備と、チームワーク」。妻木教授は「チャレンジ精神と熱意。そして楽しむこと」という答えが返ってきた。「困難にぶつかったときには、正面突破ではなく発想の転換を」。また、「失敗から、解決の糸口が見つかることもある」とのこと。宇宙から深海まで、工学で科学に貢献し、人々の役に立つものをつくるという夢を胸に、ふたりは今も新たな課題に立ち向かう。



右) 厚さ1mmの超薄型触覚ディスプレイ。実用レベル段階では世界最薄。左) クジラの体長を水流に逆らって進むローバ。

EPISODE 03  
宇宙開発はより身近に  
近年は技術を持っていれば誰でも宇宙開発に関われるチャンスが得られるように。

EPISODE 02  
観測を続ける小型探査機  
約400年動作可能な小型探査機は約3億km離れた小惑星でも動いているかもしれない。

EPISODE 01  
山形発の先端技術が宇宙へ  
2019年10月、小惑星探査機「はやぶさ2」がリュウグウの表面を飛行し、分離回収機を降下させた。



UNIVERSITY gattai

多くの人が訪れる蔵王の、謎めいた一面をさぐった

vol.184号「蔵王のふしぎ」では、山形大学学術研究院の柳澤文幸さんに取材。樹氷の状況と謎話、さらには戦時中蔵王で秘密裏に行われた軍事目的の研究が明らか。

蔵王山頂探検所

歴史と色濃く結びつく、山形の方言の裏話をさぐった

vol.182号「やまがた方言」では、山形大学人文社会科学部の中澤信幸教授に取材。言葉ひとつにその土地の文化や歴史など沢山の情報が詰まっていることを知った。

中澤信幸教授

## 封筒のことなら KING CORPORATION

キングコーポレーション

不透明度 99% プライバシー 保護封筒 (全1色展開)

中身が透けない封筒に「春色」が新登場! 申請書、請求書などの送付に最適です。

特種加工で透けない!

ソフトスカイ

ソフトワグイ

### NEW SPRING COLOR

抗菌仕様 紙製品各種

抗菌剤を配合した用紙を使用。安心してお使いいただけます。

- 長子・角2封筒
- A4判名刺台紙
- 名刺紙ケース抗菌仕様

色紙印刷で高級感も Ag 抗菌用紙 印刷再現性 高い

KING 株式会社 キングコーポレーション

仙台支店 / 〒984-0041 宮城県仙台市若林区志波町5番22号

名古屋本店 / 東京支店 / 大阪支店 / 福岡支店 / 横浜支店 / 静岡支店 / 金沢支店 / 神戸支店 / 広島支店 / 鹿児島支店 / 札幌営業所 / 青森営業所 / 浜松営業所

https://www.king-corp.co.jp/

17	年	間	の
回	顧	と	
展	望		

**撮** 影した当時と同じ場所  
での再会をお願いし、そ  
こに現れたかつての表紙キッズ  
たち。風夏さんとは14年、翔也  
さんとはじつに16年ぶりの対面  
が実現したのだが、ふたりとも  
経過した月日の長さを感じさせ  
るのに十分すぎるほどの変貌を  
遂げていた。

18歳となった風夏さんはこの  
香高校を卒業し、地元企業に就  
職。専門技術を活かした業務に  
日々取り組んでいるという。当  
時のことを尋ねると「撮影の記  
憶はあんまり...でもこの  
時着ていたワンピース  
のことは覚えていま  
す。しばらくお気に  
入りだったから」と  
教えてくれた。この日  
は、ぬいぐるみのどん  
ちゃん（P.03参照）も同伴し  
てくれて懐かしい再会となった。  
向けは当時から変わらずそば  
にいたのだそう。表紙の撮影で  
は、被写体となった子どもたちが  
落ち着かなくなったり緊張しすぎ  
たりしないよう、手に何かを



COVER BOY  
佐々木翔也さん  
2005年9月号(8/5発行)に  
登場した翔也さんはスノボが  
趣味の23歳。

持ってもらうことがよ  
くある。そうする  
と不思議と子ど  
もたちはリラッ  
クスして、無邪  
気な表情を向け  
てくれるのだ。



COVER GIRL  
田崎風夏さん  
2007年10月号(9/5発行)  
に登場した風夏さんは社会  
人1年目の18歳。

撮影で着たワンピースが可愛くて  
当時お気に入りでした。(風夏さん)

表紙のあの子は  
どうしてる？



山形十日町二郵便局前で  
撮影した表紙。はいかんだ笑  
顔が愛くるしい。

BACK in 2007 # vol.37

23 歳となった翔也さんは、  
当時の面影を残しつつも  
結構な印象の青年へと成長  
していた。向けは高校卒業後は  
白衛官として働いていたが、心

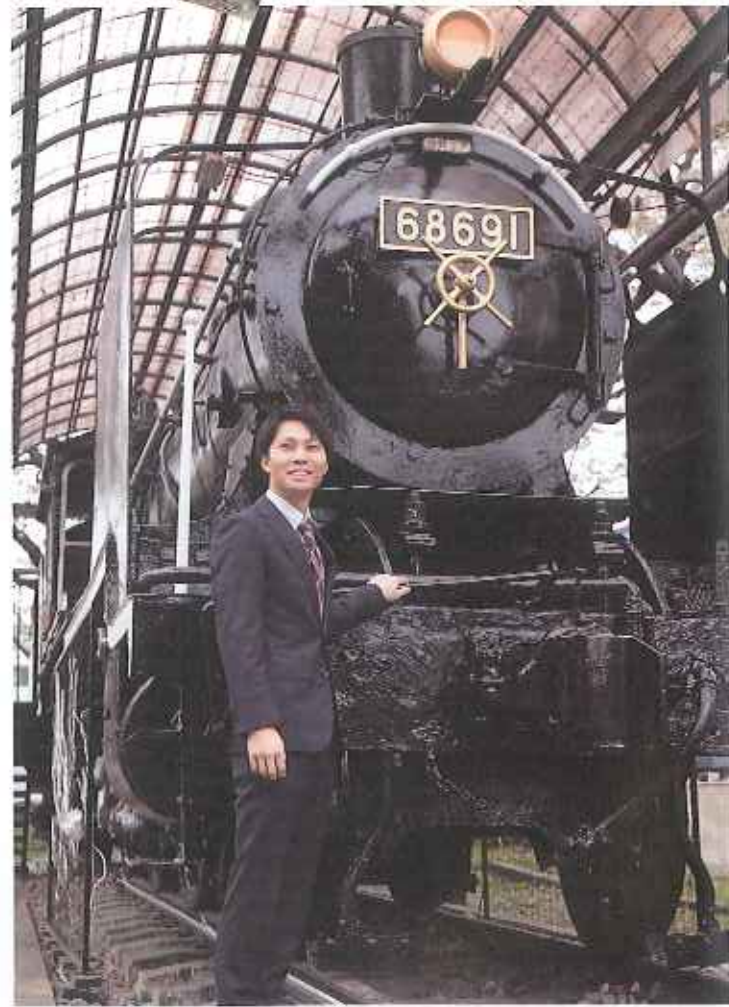
第二公園は当時のホームグラウンド  
よくここで遊んでいたんです。(翔也さん)

機一転、地元企業へ転職したば  
かりだという。「県外へ出ると  
いう選択はなかつたです」と  
話す翔也さんに理由を尋ねると  
「家族のいる地元で働きたかつ  
た。やっぱり山形が好きなんだ」  
ときっぱり。そんな彼らの、ふ  
るさとを想う気持ち。が、これ  
からもガッタの原動力です。



阿部大地さん(下)と一緒に、  
山形市十日町の第二公園  
にあるSI前で撮った表紙。

BACK in 2005  
# vol.12



「あいさつ」  
ガッタをこ愛読の皆さま、ス  
ボンサーの皆さま、いつも温か  
くご支援いただき誠にありがと  
うございます。

平成16年9月に創刊いたし  
ましたガッタは、この度皆さま  
のおかげをもちまして、200  
号を発行することとなりました。  
山形のことを誇りに思える気持  
ちを育み、山形の魅力を皆さま  
と共有したいと思いつけながら  
これまで発行して参りました。  
大風印刷はコーポレートスト  
ーガンに「私たちは、お客さま

から選ばれるナンバーワン企業  
になります」の言葉を掲げてい  
ます。また「ありがたさが愛こ  
とば」をキャッチフレーズに  
おもてなしの心でモノを作り  
、地元の魅力をカタチにする、何  
でもできる印刷屋として地域に  
貢献したいと考えております。  
フリーマガジンの発行のほか、  
ビジネスマッチングによる商品  
開発、酒類販売業、ECサイト  
オープン、コロナ感染拡大防止  
グッズの開発、観光支援事業な  
ど、従来の枠に収まらず変化を  
恐れない推進力も我が社の社  
風となっています。

りほんの少しでも幸せと思える  
出来事が増やし、暮らしへの愛  
着を深め、故郷を慈しむ気持ち  
を育てたい、それを後世につな  
いでいきたいという願いがあり  
ます。ガッタを通して、多彩な  
山形の姿や人々の声をお伝えし  
、またそれらの活動が地域創生  
の一環となるよう努めて参りま  
すので、これからもどうぞよろ  
しくお願ひ申し上げます。

故郷を慈しむ気持ちを  
後世につないでいく  
それが我々の使命です

大風印刷  
代表取締役  
大風 亨

営業から企画、取材・編集、印刷機、  
一丸となってgattaiは発行される。  
大風の社員122名がメンバーだ。

<p>COVER STORY gattai</p> <p>2005年9月号(8/5発行) #vol.012に登場</p> <p>当時6歳、幼稚園年長児だった阿部大地さんはこの最新社会人となり、神奈川県内で働き始めたばかり。「いまは一日でも早く仕事に慣れるよう頑張っています。山形の好きなところは、食べ物おいしいところ!」</p> <p>阿部大地さん(22歳・会社員)</p>	<p>2006年8月号(7/5発行) #vol.023に登場</p> <p>当時9歳と6歳だった奥山さん兄弟、仙台市在住の茶生さんは社会人2年目で遠征する日々。巨大さんは横浜市在住の大学3年生で、経済学を勉強中。</p> <p>左/ 匠人さん(20歳・大学3年生) 右/ 茶生さん(23歳・会社員)</p>	<p>2005年2月号(1/5発行) #vol.005に登場</p> <p>県外の大学で考古学を専攻。いまは石巻作りとその研究にはまっているという紀佳さん。「山形のおばあちゃん大好き」とメッセージくれた。</p> <p>阿部紀佳さん(21歳・大学4年生)</p>	<p>2009年1月号(12/5発行) #vol.052に登場</p> <p>4月から東京の大学に通学した萌香さん。「本欄に登場して写真を撮ったのを覚えてます。当時はまだ年長組で撮影しましたが、とっても楽しかったです!」</p> <p>加藤萌香さん(18歳・大学1年生)</p>
---	---	---	---